



(右) この日2得点の中田がガッツポーズ! 高校王者の国見高に大学生の貫禄を見せつけた(上)2点目のシーン。前半40分、高橋の低いクロスに中田が頭で飛びこんだ(岩田陽一撮影)



見せた大学王者の貫禄 高校王者国見を粉砕!!

12月2日 13:00 福山市竹ヶ端運動公園陸上競技場
駒大4(2-9)1国見

【駒】 26分:高橋健次
 【駒】 40分:中田洋介(アシスト=高橋健次)
 【国】 46分:オウンゴール
 【駒】 56分:中田洋介(三上卓哉)
 【駒】 69分:深井正樹(三上卓哉)

KOMAZAWA	KUNIMI
GK①桜井繁(4)	GK①徳重健太(3)
DF②木村誠(4)	DF①成瀬英二(2)
DF③小林久英(4)	DF⑤亀ヶ淵幹(3)
DF④鈴木祐輔(1)	DF⑥安部昌樹(3)
DF⑥三上卓哉(4)	DF③渡辺大剛(2)
MF⑤津村典明(4)	MF④徳永悠平(3)
MF⑩中田洋介(2)	MF⑦浦原達也(3)
MF⑨高橋健次(4)	MF②中村北斗(1)
(74分⑦橋本早十(2))	(45分⑤園田拓也(2))
MF⑧森田真実(4)	MF④片山奨典(3)
FW⑩巻誠一郎(3)	FW⑤亀ヶ淵幹(3)
FW⑨深井正樹(4)	(75分⑦平山相太(1))
(72分③金位漫(4))	FW②柴崎晃誠(2)
S U B	S U B
GK④新沼泉(3)	GK④近藤健一(3)
DF⑥小林亮(1)	MF⑥綱田大志(2)
MF⑦中後雅喜(1)	MF⑦玉藤進一(3)
MANAGER	MANAGER
秋田浩一	池田亮司

第81回天皇杯 2回戦 駒澤大学4-1国見高校



国見高・U-18日本代表の徳永を抜きにかかる森田。古巣との対戦に燃えたがゴールは奪えず

守備の甘さに付けこみ4得点
 高校最強の国見高相手に3点差の完勝。大学王者の駒大が格の違いを見せつけた。フイジカルに優れた国見高に互角な勝負を挑まれた時間帯もあったが、国見高の守備の甘さに付けこみ高橋が先制すると試合の主導権は完全に駒大のものに。U-17日本代表のGK徳重を中心とした守備をもとめせず、深井の4試合連続ゴールを含む4点を奪った。

国見高と駒大には試合の運び方、判断のスピード、体力などの部分で大きな差が存在したが、国見高の選手から「大学生を倒してやる」という気持ちはあっても、国見高の選手は自分達の意図すること果敢にトライしてもの残らぬ様子が伺える。決して悔い

打倒ジュビロ!!

ついにこの日がやってくる! 天皇杯の組合せが決まった時から選手が楽しみにしていたJ王者(1st)・ジュビロ磐田とのガチンコ対決。「幕下と横綱」秋田監督は今回の試合をこう表現したが、史上最大の番狂わせを狙っているのは他の誰でもない秋田監督本人だろう。まずは堅実なディフェンスから勝機を窺いたい。日程などは以下の通り。

<日時>12月12日(水) 19時 Kickoff
 <会場>ジュビロ磐田スタジアム
 <会場へのアクセス>JR「磐田」駅より遠鉄バスに乗り、「ヤマハ発動機前」下車。試合当日に「磐田」駅では試合開始3時間前から、「浜松」駅では2時間前、1時間30分前、1時間前の3回バス増発便あり
 <チケット料金>SS席...5500(4500) S席...4500(3500) SA席...3500(2500) 自由席...2000(1500) ()内は前売り料金 お問い合わせ先: ハローダイヤル 03-5777-8600

DF 鈴木祐輔(1年)

静かなるリベンジ

1年前の全国高校選手権。準々決勝で国見高の前に涙を飲んだ武南高の主将を務めていたのが鈴木祐輔である。この日、1回戦で退場になった那須の代わりにめぐってきた出場機会は、鈴木にとっては運命的なものだったのかもしれない。「意識しないといったら嘘になりますけど」鈴木は静かにリベンジの意識を燃やしてピッチに立った。そして大学日本一のチームの一員として、堂々たるプレーで4-1の大勝に貢献した。今季初めは全国高校選抜の遠征で出遅れ、その後はU-20日本代表の戦いを終えた那須がチームに復帰したため、出場機会は限られたものだったが、その少ない時間を鈴木は確実に自信に変えていった。4年生が卒業しDFラインが一新する来季、鈴木がそのポジションを獲得する可能性は高い。(熊崎)



警告(C)/退場(S)
 【駒】 16分:小林久英(C)、43分:中田洋介(C)
 【国】 64分:成瀬英二(C)

<シュート>14:7< 枠内シュート>6:4
 <決定機>7:1< GK>10:21< CK>7:4
 <PK>0:0< 直接FK>9:19< 間接FK>2:3
 <OS>2:2< 主審>塩川拓司< 観衆>1829人

※上記データは全て左側の数字が駒澤、枠内シュート、決定機は本誌記者による記録です